

子ども多文化共生センター通信(テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

第99号

発行元 子ども多文化共生センター TEL 0797-35-4537

発行日 2026(令和8)年9月9日(水)

ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



テラたま
(イメージキャラクター)

9月になりましたが、まだまだ暑い日が続いています。そんな日は、家や図書館で本を読むのもよいと思います。そこで今回は、この夏に読んで面白かった本を紹介します。今年の7月に出版された『日本人はなぜ家で靴を脱ぐのか』(井上章一著)です。

著者の井上章一さんは、ユニークな視点で日本の歴史を研究している人です。この本では、日本の「家で靴を脱ぐ習慣」について書かれています。昔、日本に来た外国人は、この習慣をどのように見ていたのでしょうか。また、昔の日本人は靴を脱がない外国の文化をどのように受け入れてきたのでしょうか。この本では、その歴史が書かれています。

内容を少し紹介します。例えば、17世紀に貿易のため日本へ来ていたオランダ人は、日本人の家へ行くときに、革靴ではなく、脱ぎやすいスリッパをはいて出かけました。そして、家に入るときはスリッパを脱いでいました。逆に、19世紀にアメリカ人が外交交渉のために軍艦で日本へ来た時には、靴をはいたまま畳に上がって、日本と交渉しました。外交の場面では、靴を脱いでほしい日本人と、靴を脱ぎたくない外国人の話合いもあったそうです。また、昔の日本人は、商店などの家以外の建物に入る時も靴を脱いでいました。しかし、約100年前に百貨店ができると、商店では靴を脱がなくなりました。今では、家以外で靴を脱いで入る場所は、旅館や銭湯など、とても少なくなっています。

ちなみに、日本の小学校、中学校、高校の多くでは、入る時に靴を脱ぎます。そして、上履きになります。しかし、子ども多文化共生センターと同じ敷地内にある、県立国際高校と県立芦屋国際中等教育学校では靴をはいたまま校内に入ります。靴を脱ぐかどうかにも、その学校の特徴が表れていると思います。

今、日本人が当たり前だと思っている靴の習慣にも、外国文化との交わりの歴史があります。そのことを知ると、多文化共生についても理解が深まるのではないかと思います。この本を紹介しました。興味をもった人は、ぜひ読んでみてください。

活動報告



この写真は加古川会場での様子だよ！



外国人児童生徒等に関する就学支援ガイダンス

今年度の就学支援ガイダンスは神戸会場、加古川会場、西宮会場、姫路会場で実施しました。どの会場でも、多くの方にご参加いただきました。ご協力いただきました市教育委員会や関係機関・団体のみなさま、ありがとうございました。参加者は、高校生の体験談や学校制度の説明に聞き入り、個別相談では進路や学校生活に関する様々な質問をされていました。このガイダンスが、子どもたちの進路選択の助けとなり、希望する進路の実現につながることを願っています。

ヒューマンフェスティバルでのセンター展

8月8日（土）、ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2026 in みき（三木市文化会館）において、子ども多文化共生センター展を実施しました。三木市内の三木東・三木総合高校のみなさんにもボランティアでご協力いただきました。ありがとうございました。



県庁インターンシップ

夏休みももう少しという8月末に、県庁インターンシップで、県立三田祥雲館高校と県立芦屋国際中等教育学校の生徒さんが子ども多文化共生センターへ来てくれて、業務体験を1日行いました。お二人から、感想をいただいています。

県立三田祥雲館の生徒さん

子ども多文化共生センターは外国人児童生徒が学校で安心できる環境を作るため、通訳を行うサポーターの派遣や、教育相談などの支援を行っていると聞きました。三田祥雲館高校では、国際交流として、今年タイの生徒を招きました。遠く離れた異国の地で、タイの生徒は不安もあったと思いますが、祥雲生とタイの生徒が仲良く過ごしていたことが、とても印象に残っています。「多文化共生」という言葉は広がりつつあると思いますが、それについて考え、実践する人は少ないと思います。私は今回この実習で得られた経験をもとに、学校や身の回りの人たちへ、多文化共生について考える機会を広げていきたいと思っています。

県立芦屋国際中等教育学校の生徒さん

私は5年間芦屋国際中等教育学校に通っていますが、子ども多文化共生センターにはあまり訪れたことがありませんでした。だから、今回のインターンシップでお世話になると聞いて、わくわくしていました。多文化共生については、中学1年から学習しているので、きちんと理解し実践できていると思っていました。子ども多文化共生センターでは、教育相談、学習教材・書籍等の展示や貸出、その他にも想像以上に多くの外国につながる子どもたちの学習支援をされていると知りました。身近にある場所だからこそ、活動内容を知る機会はなかったけれど、今回の実習を通して改めて公平に学習できる権利やコミュニケーションで助け合うことの大切さを実感しました。



この写真はインターンシップでの2人の様子だよ！
2人ともとても熱心に業務をしてくれました。
ありがとうございました！！



子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町1-2

TEL : 0797-35-4537 FAX : 0797-35-4538 E-mail: mc-center@pref.hyogo.lg.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

外国人児童生徒の支援、子ども多文化共生教育に関わることなどについて、お気軽にご相談ください。